

東北の復興に向けて～小名浜港より

平成 24 年 1 月記

仙台支部 テクニカルエキスパート
(震災復興支援業務担当) 松澤正義

このたびの東日本大震災復興支援業務については、3 月に動員の声が掛かり、二つ返事で有りがたくうけたまわった次第です。

●震災・津波のこと

3 月 11 日のことははっきりと記憶しております。私の住んでいる場所は仙台の山手の方なので、幸いにも「津波」とは無縁なところですが、当日は午後 2 時ごろまで仙台港のイベント会場「夢MUSE」におり、自宅へ帰る途中の運転中に地震にあいました。仙台港への津波襲来は地震後 1 時間程度とのことですが、もし時間がずれていたらと思うと命拾いをした気分です。

その後の 10 日間程度は電気・水道・ガスが無い不自由な生活をする事になりましたが、報道で知る被災者の苦勞からすれば、なんの苦にもならないものでした。

程なくしてから車の燃料が許す範囲で、被災地を野次馬気分も手伝って見て回りましたが、どこも悲惨な状況です。奥松島や三陸町は、昔はのどかな風景を眺めて楽しんだところでしたが、今では建物の基礎を残すのみの惨状です。

●震災復興支援業務の実施について

赴任地は 9 月までは小名浜港でしたが、10 月以降は釜石港に移動しました。

今の業務は、災害復旧という特異な条件のためでしょうか、復旧内容の変更が頻繁に発生し、期限間際まで復旧断面が決まらなかったり、変更になったりということは日常茶飯事です。私は「整理整頓」が苦手と思わぬ所で苦勞することがあります。そこで、業務実施において自分なりに気をつけていることを少しですが述べてみます。

① 受領書類・データについて

受領書類やデータ及び指示事項は頻繁に変更になります。従って、紙でもらったものは余白に日付と名前を書き込んでおき、電子データについても誰からいつもらったものであるかがわかるような名称にして登録するようにしています。

② 作成した成果品について

自分が作成した図面や書類については、登録時において自分の名前等を入れるようにしています。例えば、「平面図(藤原防波堤(I)matsuzawa1103 書き込み)」等です。登録名称が多少長くなっても、その名称によってその内容がわかれば大変便利です。

後で困るのは受領したものか、新たに作成したものが分からなかったり、〇〇護岸図面 1 とか、〇〇護岸図面 2 とかのみの名称で登録されたものです。それを開いてみないとその内容が分からない場合があります、作成した人にとってはそれで十分なのですが、やがてその記憶も薄れてきますし、共同作業

で進める場合等には混乱のもとになります。

③ 数量計算書について

可能な限り、数量計算書の中にその根拠となる「図」を、なるべく同一ページ内に挿入するようにしています。計算根拠が明白ですし、第三者がチェックするにしても簡単です。

数量計算書も数度の修正や変更を余儀なくされます。必要な場合には「履歴」という名称のシートを設けて、対応記録のメモをするようにしています。つまり、数量計算書は、「表紙」「集計表」「撤去工」「基礎工」・・・・・・というようなシート順になっているのが普通ではないでしょうか。「履歴」というシートを設けて計算上のメモ書き（例えば、○月○日暫定断面による計算、○月○日上部工数量修正・提出、○月○日基礎断面変更・計算未実施、等）をしておけば便利です。

●最後に

釜石湾口防波堤は大きく被災しましたが、年明けからは復旧工事も開始される予定です。釜石の市街地も少しずつ明かりが灯るようになってきています。昔の姿に戻るには長い年月かかることと思いますが、各方面からの支援により着実に復興に向かっております。それにしても寒さが身にしみ、春が待ち遠しい毎日です。